



知行院便り

発行／宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



ごあいさつ

知行院住職 坂本観泰

新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は多くの温かいご支援とお力添えを賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は新年早々、能登地方を襲った震災により、多くの方々が困難な状況に直面されました。この震災を通じて、自然の力の大きさを改めて感じるとともに、人と人との支え合いの大切さを痛感した一年でもありました。被災された方々に一日も早い安らぎが訪れるよう祈念するとともに、私たち一人ひとりが助け合い、前を向いて進むことの大切さを改めて胸に刻んでおります。

本年は十二支の巳年にあたります。巳は、知恵と再生の象徴とされる存在です。特に、蛇が脱皮を繰り返す姿に倣い、困難を乗り越えて新たな自分へと生まれ変わる年だとされています。この一年が、震災を経験した地域が知恵を結集し、再生への大きな一歩を踏み出す年となるよう、私たちも全力でお支えしたいと思えます。

また、巳年は「財を集める年」ともいわれます。これは単に物質的な豊かさだけでなく、心のつながりや支え合いの絆が深まり、精神的な豊かさが広がることも意味しているのではないのでしょうか。

本年が皆さまにとって、新しい希望と飛躍の年となりますよう、そして被災地の復興がさらに進む年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

教えて、住職さん！

第十四回 比叡山延暦寺の年越しと鬼追式

お寺のこと、仏教のことで、知っているようでよく解らないことを、ご住職にインタビュして教えていただきます。第十四回目は、比叡山延暦寺の年越しと鬼追式について解説していただきました。

(聞き手 編集担当 薄井秀夫)

聞き手 ご住職は若い頃、比叡山で修行をされていたと思いますが、延暦寺では、大晦日にどんなことを行うのですか？

住職 延暦寺では、除夜の鐘をつくまでの間、修正会から始まって、追儺式、鬼追式という儀式が行われます。

人間には、貪瞋痴という三つの煩惱があります。むさぼり、怒り、無知のことで、三毒とも言われています。追儺式、鬼追式は、この三毒を取り除くための儀式です。特に、鬼追式は、たくさんのお参りの方に囲まれ、ドラマチックな儀式となります。

聞き手 具体的には、どんな儀式なんですか？

住職 追儺式は根本中堂の中で行う法要ですが、鬼追式は根本中堂の前の広場で、まるで演劇のような儀式を行います。

大晦日の寒空の中、広場で護摩を焚きます。そのまわりで、錫杖をもった僧侶(錫杖師)が、四匹の鬼と戦います。

初めに黄色の鬼が登場します。むさぼりの心をあらわす笑い鬼です。錫杖師と笑い鬼が戦いますが、錫杖師の力で笑い鬼は降伏され、改心させられます。

次いで登場するのは、赤い姿をした怒り鬼です。この怒り鬼もやはり降伏されます。さらに緑色の泣き鬼も登場しますが、やはり降伏されてしまいます。

今度は、灰色のババ鬼が登場します。錫杖師は、先に改心させた笑い鬼・怒り鬼・泣き鬼を繰り出して戦わせます。

ババ鬼は強く、なかなか勝負が付きませんが、ついには三匹の鬼が力をあわせて、押さえ込みます。

鬼追式は終わると、周囲にいる参拝者

が、近くに控えている僧侶に殺到します。無病息災のご利益があるとされる牛王の印を押しもらうためです。以前は、額に直接おしてもらってましたが、最近是用意した絵馬に押しってもらうようになっています。

聞き手 なかなかドラマチックな儀式ですね

住職 そうですね。私も修行僧時代、鬼



暴れる笑い鬼



錫杖師と三匹の鬼がババ鬼を降伏する

の役目をしました。泣き鬼を一回、ババ鬼を二回やっています。面をかぶっているのを、視界が悪く護摩の火に近づいてしまうこともありました。火に突っ込むと大変なことになるので、黒子がいて、危ない時は抑えてもらっていました。去年は、比叡山で修行をしている長男も笑い鬼をやっています。親子そろって、鬼として降伏されてしまいました(笑)。

万年塀を一部改修

墓地西側の万年塀まんねんべいの一部を取り壊し、フェンスに改修致しました。

知行院の墓地は西側と北側、東側の一部が万年塀で遮蔽しゃへいされています。万年塀とは、鉄筋コンクリート製の支柱に平板のコンクリートを挟んでつくった塀のことを言います。

昭和三十九年生まれの住職の記憶の範囲ではずっと万年塀でしたので、五十年以上前に設置されたものです。

近年、地震災害のニュースを見聞きする度、倒壊時の事故を危惧して、幾度となく計画をしてみましたが、経済的な目途が立たず、断念をしておりました。

近年墓地側からの土砂の圧力で道路側に膨らんでしまい、近隣の方からも危険だと世田谷区に通報がありました。世田谷区から正式な改善の依頼を受け、今回危険とされた部分だけでも改善しようと工事に踏み切りました。

今回は万年塀十枚分、約二〇メートルをフェンスに変え、高さも一八〇センチから一五〇センチに致しました。

道路に面した、西側はまだ六〇メートル程残っておりますので、歩行者の安全確保の為できるだけ早く、フェンス化を進めたいと思っています。



新しいフェンス／手前(左側)は古い万年塀

「えこうプロジェクト」

協力のお願い

—— お供物をフードバンクに

前号（二十九号）で、地域のフードバンクを支援する「えこうプロジェクト」への協力をお願いしました。お檀家の皆さまが行う年忌法要などのお供物を、法要後、フードバンクに提供するというものです。

年忌法要でお持ちいただくお供物は、仏様（本尊様）へのお供えです。仏様に喜んでいただき、その功德を亡くなった家族に届け、安らかになっていたりするために、お供えするものであります。

そのお供物を、法要後、地域に提供し、活かしていただくというのが「えこうプロジェクト」です。

一般的にお供物はお菓子をお持ちいただく方が多いですが、このプロジェクトにご協力いただく場合は、

フードバンクで利用しやすい食品をお願いしています。缶詰やインスタント食品、レトルト食品、コーヒー。お茶などの嗜好品、乳児用食などが利用しやすいようです。

食品は、社会福祉協議会を通じて、子ども食堂やミニデイ（高齢者が交流を深め、楽しく過ごす場）、あるいは食の支援を必要とする家庭に提供されます。

ご協力いただける方は、年忌法要のお申し込みの時に、ご相談いただければと思います。提供していただく食品等について説明させていただきます。

前号で協力をお願いしてから約半年の間に六軒のお檀家にご協力をいただきました。

今後も、皆さまからのお供物を、地域に活かす活動に、ご協力いただければと思います。

名僧の一言

「怨みをもって怨みに報ゆれば、
ば、怨みは止まず。
徳をもって怨みに報ゆれば、
怨みはすなわち尽く」

伝述 一心戒文 僧最澄

この言葉は、伝教大師最澄さまのお言葉です。法句経というお経や論語にも同様の記述があります。

伝教大師は、憎い相手を許すことは簡単にできることではないが、怨みがあっても相手を思いやる慈悲の心をもつことが大事であると説かれました。

ここ数年、世界各地で戦争、紛争が絶えません。怒りに対して怒りで対峙する、「やられたらやり返す」を繰り返し、一向に終息には至っていません。

この怒りの連鎖を断ち切るには、慈悲の心を持つことの他に手段はありません。

日々の生活でも怒りに任せた行動をとるのではなく、相手を許す心をもって、身近な平和を目指していきたいものです。